

# 福島県果樹農業振興計画の概要

## I テーマ

ふくしまプライド ‘フルーツ物語’

## II 主要品目ごとの方向性

- もも：県育成オリジナル品種を核とした品種リレーとトップブランドの構築
- なし：品種構成の再編とグローバルシェアの獲得
- りんご：着色系ふじ等優良系統・品種への転換による産地銘柄の確立
- ぶどう：個性ある品種の作出・導入と施設化による高収益生産の実現
- かき：加工自粛の早期解除とオンリーワンブランドによる販売力の増強

## III 生産振興の視点

- 重点品目（もも・なし）の復興・再生（重点的な産地育成）
  - ・ モモせん孔細菌病対策、なしのジョイント栽培等早期成園化技術の導入
- 担い手の育成・確保と経営安定（生産基盤の強化、新たな生産体制の構築）
  - ・ 貸付・借受希望者のマッチング等による樹園地継承の取組
- 本県果樹のブランド力強化（市場競争力の強化）
  - ・ 出荷期間の拡大、品種の開発と導入、安全確保対策の徹底、GAPの推進
- 販路の拡大（収益の確保）
  - ・ 高級ブランドの確立、ニーズに対応したグローバルシェアの獲得
- 風評払拭と消費拡大対策（収益の確保）
  - ・ 風評対策、情報発信、食育の推進 （ ）はふくしま農林水産業新生プランの施策

現状

- ・ モモせん孔細菌病の被害拡大
- ・ 園地が老朽化する中、成園化するまで年数を要するため改植が進まない
- ・ 東日本大震災及び原子力災害による風評や担い手不足の顕在化
- ・ 全国との市場価格差が埋まらず、特に高価格帯商品の需要が減少
- ・ 風評により観光需要が減少
- ・ ももは「あかつき」、なしは「幸水」・「豊水」、りんごは「ふじ」偏重の品種構成
- ・ 県育成オリジナル品種の開発・導入が進む
- ・ 東南アジアへの輸出など新たな需要の増加
- ・ あんぽ柿は県北地域で加工自粛が継続(H29現在)

## IV 生産目標

	H22	H27	H37
栽培面積	7,400ha	6,770ha	6,860ha
産出額	314億円	277億円	320億円

## V 計画期間

平成30～37年度